

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 実践的な志向を持つ学生に対応した授業形態を検討する。	→ 「教育学研究科の教育課程および授業形態を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」「履修者数規模別の授業科目数」「少人数授業の授業形態の調査」「規模別講義室・演習室の使用状況」「マルチメディア教室の稼働率」	B
2. シラバスと授業内容との整合性について、継続的に検証する。	→ 「学生による授業評価の実施率」「学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率」	A
3. 教育学研究科における成績評価のあり方について、問題点の抽出と改善の方策を継続的に検討する。	→ 「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と開催頻度」「各授業科目の成績分布」	C
4. 修士論文・博士論文の指導体制について、実施結果の検証を行う。	→ 「学生へのアンケート調査」	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

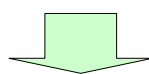
☆ 小項目6.3.1	(方針) 実践的な志向を持つ学生に対応した授業形態を検討する。 (現状説明) 研究科開設初年度である2009年度の教育学研究科の在学者数は、博士課程前期課程3名、後期課程3名、計6名であった。従って、すべての授業が少人数で行われている。マルチメディア教室は、主にほぼ毎日通学している前期課程1年生によって、有効に利用されている。少人数での特殊講義や演習授業の他に実践的志向を持つ学生に応える授業形態としてどのようなものがあるのかを検討するため、授業を通して学生のニーズを把握しつつある状況である。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 学生による授業評価を実施して（実施率100%）、授業担当教員が個別にシラバスと授業内容の整合性について自己評価を行っている。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 開設初年度であるため、高度な専門的知識の修得をどのように評価するかについて、現行の成績評価の検証を行うまでに至っていない。

★ 小項目6.3.4	(現状説明) 修士論文・博士論文の指導については、学生からの授業評価によって、各教員が指導内容の検討、改善を行うことができています。しかし、指導体制については、検証するに至っていない。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	授業形態を検討する上での、学生の授業へのニーズ把握。
小項目6.3.2	シラバスと授業内容の整合性に関する教員の自己評価。
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



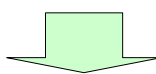
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	教育学研究科の教育課程および授業形態を継続的に検討する委員会を設置し、学生の授業へのニーズ把握を基に、実践的志向を持つ学生に対応する授業形態を検討する。
小項目6.3.2	学生の授業評価を基にした、シラバスと授業内容の整合性に関する教員の自己評価を、研究科全体の課題改善に活かす。
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	マルチメディア室の利用法。
小項目6.3.2	学生の授業評価結果の活かし方。
★ 小項目6.3.3	成績評価方法の検証。
小項目6.3.4	修士論文・博士論文の指導体制の検証。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	現在、実質的には博士課程前期課程1年生のみが使用しているマルチメディア室の有効利用法について、研究科委員会で検討する。
小項目6.3.2	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率から、研究科全体のシラバスと授業内容の整合性を検証する。
★ 小項目6.3.3	研究科の教育課程を検討する委員会において、各授業科目の成績分布を基に、成績評価方法の検証を行う。
小項目6.3.4	研究科の教育課程を検討する委員会において、修士論文・博士論文の指導体制に関する学生へのアンケートの調査内容を検討した上で、調査を実施し、現行指導体制の検証を行い、改善点を提案する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○『改善すべき事項』として問題は認識されていますが、6.3.2のシラバスと6.3.4の指導体制について、研究科としての体系性をもったありかたを構築することが望まれます。

【学内委員】

○進捗評価は、目標の達成を基準に行われるものです。現在の時点でAとなっているものは、より進んだ目標を設定することが望まれます。目標のうち「検討する。」「継続的に検証する。」となっているものについても、今後、検討された施策や、検証の結果を見て実施される改善の成果についての目標に改めることが期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
